

「食事形態の違いにおける咀嚼チェックガムとFIMの関係性に関する研究」 についての説明

入院後、言語聴覚療法でのリハビリの際に取得し保存されている以下の情報を使用します。

対象：対象者は2021年から2023年までに入院され、言語聴覚療法の処方があり常食、嚥下調整食4(学会分類2021)を摂取している方

1. この研究がめざしているもの

高齢者や口腔嚥下機能が低下した患者は経口摂取において誤嚥・窒息のリスクがあり、近年の誤嚥性肺炎の発症数は増加傾向です。当院では食事形態を判断する際に嚥下造影検査や食事場面での評価を行っていますが、更なる安全性向上目的に経口摂取以外の評価を模索しました。今回は常食と嚥下調整食4(箸やスプーンで切れる柔らかさの軟菜軟飯)に着目し、ロツテキシリトール咀嚼チェックガム[®](以下咀嚼チェックガム)と機能的自立度評価表(Functional Independence Measure: 以下FIM)の関連を調査しました。

咀嚼ガムとは、噛むことでガムの色が変わり、噛む力を把握できるガムです。FIMは、セルフケア、移乗、移動、コミュニケーションなどの項目からなる尺度です。この2つの関係性をみることで、食事形態の判断基準の一助にする事を目的としています。

2. この研究の方法(スケジュール)

対象者は2021年から2023年までに入院され、言語聴覚療法の処方があり、常食と嚥下調整食4を摂取していた方としています。

基本情報、咀嚼チェックガム、FIM、食事場面での評価によって得られた情報を使用します。データ集積、解析し研究としてまとめます。研究期間は、倫理委員会承認後から2025年12月までとします。

意識障害があった方、肺炎または絶食など3食経口摂取を行っていない方、口頭指示が入らずガムが噛めない方は研究から除外しています。

3. 予測される不利益と危険性

この研究において個人を特定できないように、個人情報に記載しないように管理します。被験者の権利、利益を損ねる事はありません。

4. この研究への参加と同意について

病院のホームページに本研究の説明を掲載し、申し出があった場合は研究対象者から除外します。

5. プライバシーの保護への配慮

今回知り得た情報は、研究責任者で厳重に管理し、研究目的以外では使用致しません。研究発表にあたっては、データから個人が特定できないような形式を取り、個人情報保護に努めます。

6. 連絡先

たたらリハビリテーション病院 医療倫理委員会 事務局

電話 092-691-5508

研究担当者：今泉 文 リハ技術部